



血液一般

- ・赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット → 貧血の有無を調べます。
 - ⬆️ 多血症や脱水など
 - ⬇️ 貧血など
- ・MCV、MCH、MCHC → 貧血の種類を判断するのに参考になります。
- ・白血球 → 細菌の感染を防ぐ役割があり、感染の疑いを調べます。
 - ⬆️ 感染症、心筋梗塞、出血、腫瘍、白血病など
 - ⬇️ 再生不良性貧血など
- ・血小板 → 出血時、血を止める働きがあり、出血傾向がわかります。
 - ⬇️ 血が止まりにくくなります。

脂質代謝

- 『コレステロール』は、細胞膜・ホルモン・胆汁酸を作る材料です。
- ・LDLコレステロール → 肝臓で作られたコレステロールを血液を使って運ぶ働きがあります。
 - ⬆️ 高LDLコレステロール血症、動脈硬化症、狭心症、心筋梗塞、脳血管疾患を引き起こす可能性があります。
 - ・HDLコレステロール → 血液中のコレステロールが増えすぎのを防ぐ働きがあります。
 - ⬇️ 低HDLコレステロール血症、動脈硬化症、高血圧症、狭心症、心筋梗塞、脳血管疾患を引き起こす可能性があります。
 - ・中性脂肪 → 体を動かすための、エネルギー源になります。
 - ⬆️ 脂肪肝、動脈硬化など

糖代謝

- ・血糖（空腹時血糖） → 血液中のブドウ糖濃度がわかります。
- ・HbA1c → 過去1～2カ月の血糖の異常がわかります。
 - ⬆️ どちらも、糖尿病が疑われます。



☆血糖値を高いまま放置しておく、指先の感覚がおかしい！急に体重がガタガタ減る！などの症状や眼の病気や腎臓病にも繋がります！早めの受診をお勧めします。

肝機能

- ・AST（GOT）、ALT（GPT） → ⬆️ 肝障害、心筋梗塞、心筋症、骨格筋などの病気が疑われます。
- ・γ-GTP → ⬆️ 主に、アルコールでの肝障害が疑われます。その他、肥満、過剰な糖質や脂質の摂りすぎ、薬剤が原因となることがあります。

HB s 抗原 ⬆️ B型肝炎の感染が疑われます。

HB s 抗体 【陽性】過去にB型肝炎ウイルスに感染していた、もしくは、ワクチン接種によって抗体（免疫）ができたことがわかります。

HCV抗体 【陽性】C型肝炎の感染が疑われます。

尿酸（UA） ⬆️ 高尿酸血症（痛風）が疑われます。

膵機能

- ・血清アミラーゼ（AMY） → 主に膵臓から分泌される消化酵素で、でんぷんなどの糖を分解します。
 - ⬆️ 膵臓や分泌腺の炎症が疑われます。

血沈 → 主に炎症を伴う病気の有無や程度がわかります。

- ⬆️ 肺炎や腹膜炎などの急性炎症やリウマチや結核などの慢性炎症が疑われます。

腎機能

- ・尿素窒素（BUN） → ⬆️ 腎臓の排泄機能の低下が疑われます。
- ・クレアチニン → ⬆️ 腎機能の低下が疑われます。
- ・推算糸球体濾過量（eGFR） → 1分間に腎臓の糸球体から濾過される尿の量を調べます。
 - ⬇️ 慢性腎臓病が疑われます。

梅毒

- ・梅毒（TPHA法・RPR法） → 【陽性】梅毒の感染が疑われます。

炎症反応

- ・リウマチ因子定量（RF） → 【陽性】リウマチ、膠原病が疑われます。
- ・CRP → ⬆️ 体内の炎症や膠原病などが疑われます。

甲状腺機能

- ・遊離トリヨードサイロニン（FT3） → 脳下垂体の前葉から分泌されるホルモンで、甲状腺ホルモンの分泌を調節する働きがあります。
- 甲状腺機能は、遊離トリヨードサイロニン（FT3）、遊離サイロキシニン（FT4）、甲状腺刺激ホルモン（TSH）との数値とのバランスをみて状態を判断します。
- 各ホルモンの増加、減少がある場合：甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎が疑われます。

電解質

『電解質』は、水に溶けて電気を通すミネラルのイオンのことです。体内の水分量やpHを一定に保ったり、神経の伝達や心臓、筋肉を動かすことなどに深くかかわっています。健診では、Na、K、Cl、Ca、IPを調べます。

異常値：身体の中の水分とミネラルのバランスが崩れている可能性があります。

蛋白分画

→ 疾患による特有の濃度異常を調べます。（ALB、α1、α2、β、γ）

異常値：ネフローゼ症候群、肝障害、多発性骨髄腫、アミロイドーシス、原発性マクログロブリン血症、などが疑われます。

フリーラジカル（酸化ストレス度・抗酸化力）

活性酸素の一種で、さまざまな病気や老化などの原因に関わる物質です。

- ・酸化ストレス度 → 活性酸素、フリーラジカルによる細胞のストレス度がわかります。
- ・抗酸化力 → 過剰な活性酸素、フリーラジカルを打ち消す力がどの位あるかがわかります。

腫瘍マーカー → がん細胞が産生する特異な成分を調べます。

項目	高値になる場合
PSA	前立腺がん、前立腺肥大症、前立腺炎などが疑われます。
シフラ	肺がんの中でも扁平上皮がんが高率に疑われます。肺がん全体や非小細胞がんでも高値を示すことがあります。
NSE	肺がんの中でも小細胞がんが高率に疑われます。神経内分泌腫瘍、神経芽細胞腫、褐色細胞腫でも高値になります。
AFP	肝がん、肝芽腫、肝炎、肝硬変、血管拡張性失調症などが疑われます。
PIVKA-Ⅱ	肝臓がんが高値になります。
CEA	大腸がんが疑われます。その他食道がん、乳がん等でも高値を示すことがあります。
CA19-9	膵がん、胆管がん、大腸がんなどが疑われます。また、卵巣腫瘍などの婦人科系の悪性疾患、胆石症、胆のう炎でも高値になります。
CA125	卵巣がんが高率に疑われます。子宮内膜がん、子宮頸がん、子宮内膜症、妊娠早期、月経期にも高値になります。
NMP22	膀胱がんが高率に疑われます。
エラスターゼ I	膵がん、急性膵炎などが疑われます。胆道疾患、アルコール依存症、腎不全等でも高値を示すことがあります。

☆『腫瘍マーカー』は、がん細胞が産生する特異な成分です。がんが進行すると血液中に出ますが、がんではない場合や良性の病気（例：CA-125 子宮内膜症）でも表のように高くなる場合があります。すべての腫瘍マーカーは、悪性腫瘍に完全に特異的とは言えません。本来は、がんではない何らかの病気以外の影響で検査値に異常が見られることがありますので、専門医での精密検査をお勧めします。